



特別  
~ 13  
4181  
2



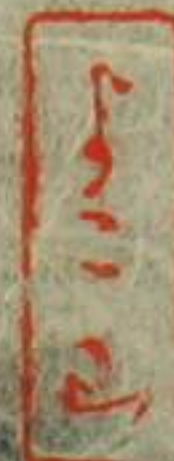


紙  
ノ  
41  
P



うたはけニ

万歳がいとく 蕨麻河津ふとぬれ 浅きゆと千漣  
いそまどさみり 桑うとて 橋との月あかり  
つこ菊とあて 落礎うらむ 雲よまはらふつこいとも  
うく 落花よゆつこい 分もす 茶煙とあつと  
僻りあんとらんを 傀儡あかぬらとせ 居座  
ありていさくされも 鳥居とぬじかりともいさく  
ゆとあかみせあかみ 鳥居ありし 羽衣のゆり松  
のき年と人の入唐のゆいづきの書ふあつるや  
あつるしとら 唐のゆいづきとあつるしとら 見えたる























叔師あしがいくぞに茶に初して後してまいの心  
 の字いるらんそのあめゆらわらうこと茶と  
 うらぶのらんわまいのまめたらんのくらいい  
 来りやさふ皇の傍いくまにもたれたらん  
 ちの明いめへらりたらんのままらんといふからこ  
 へらりらりとを代と林の家らの白茶といふを極め  
 して何の将軍大周秀首公へそのまいのらんいふといふ  
 小感にありめて茶はさびしくれ白茶がままれば  
 とそのままめてしくとままとりされらんといふらり  
 茶の裏の茶の味のりりの白茶はままに入るといふ



とねむじりの定と一とてあづきぬひ一なりと  
惚るに 惚惚子ぐいしくいふのゆとそれぞ  
ゆてとらざるのよむ念ふせとこころとあて  
くらくともわぶあひあやとととととととと  
とふ役のすくせまりとそ引さげたる詞づひれ  
む。万歳と惚惚まぐわひのうらの下とあゆると  
さざらりのすみせひきれむ。皇の場と詞とのこ  
感しあはるるさゆらむまこい。まの場といく惚惚  
みふ他念さう刀脇指とあめとまふ人。礼記あも傲と  
むもさうととととととととととととととととととと

ゆり。ゆりゆりの帝堯は天下のわがととととと  
きれど金珠ととととととととととととととととととと  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
まう惚惚のうらんととととととととととととととととととと  
よちりさうるととととととととととととととととととと  
わさりとととととととととととととととととととととととと  
おあめの役ととととととととととととととととととととととと  
桜機曲節ととととととととととととととととととととととと  
あふとととととととととととととととととととととととと  
まゆりのととととととととととととととととととととととと











てゆへにうご漂ひとてくまはす<sup>あはれ</sup>とあつてちりて  
 音は<sup>あはれ</sup>ゆかりの<sup>あはれ</sup>徳ありの<sup>あはれ</sup>心と<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>なれを  
 の<sup>あはれ</sup>あつたの<sup>あはれ</sup>徳ありの<sup>あはれ</sup>心と<sup>あはれ</sup>あつて  
 邪<sup>あはれ</sup>道<sup>あはれ</sup>暴<sup>あはれ</sup>りあると<sup>あはれ</sup>いふ<sup>あはれ</sup>なり<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて  
 徳<sup>あはれ</sup>ありの<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて  
 津<sup>あはれ</sup>物<sup>あはれ</sup>徳<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて  
 徳<sup>あはれ</sup>と<sup>あはれ</sup>いふ<sup>あはれ</sup>なり<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて  
 徳<sup>あはれ</sup>ありの<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>あつて  
 と<sup>あはれ</sup>いふ<sup>あはれ</sup>なり<sup>あはれ</sup>









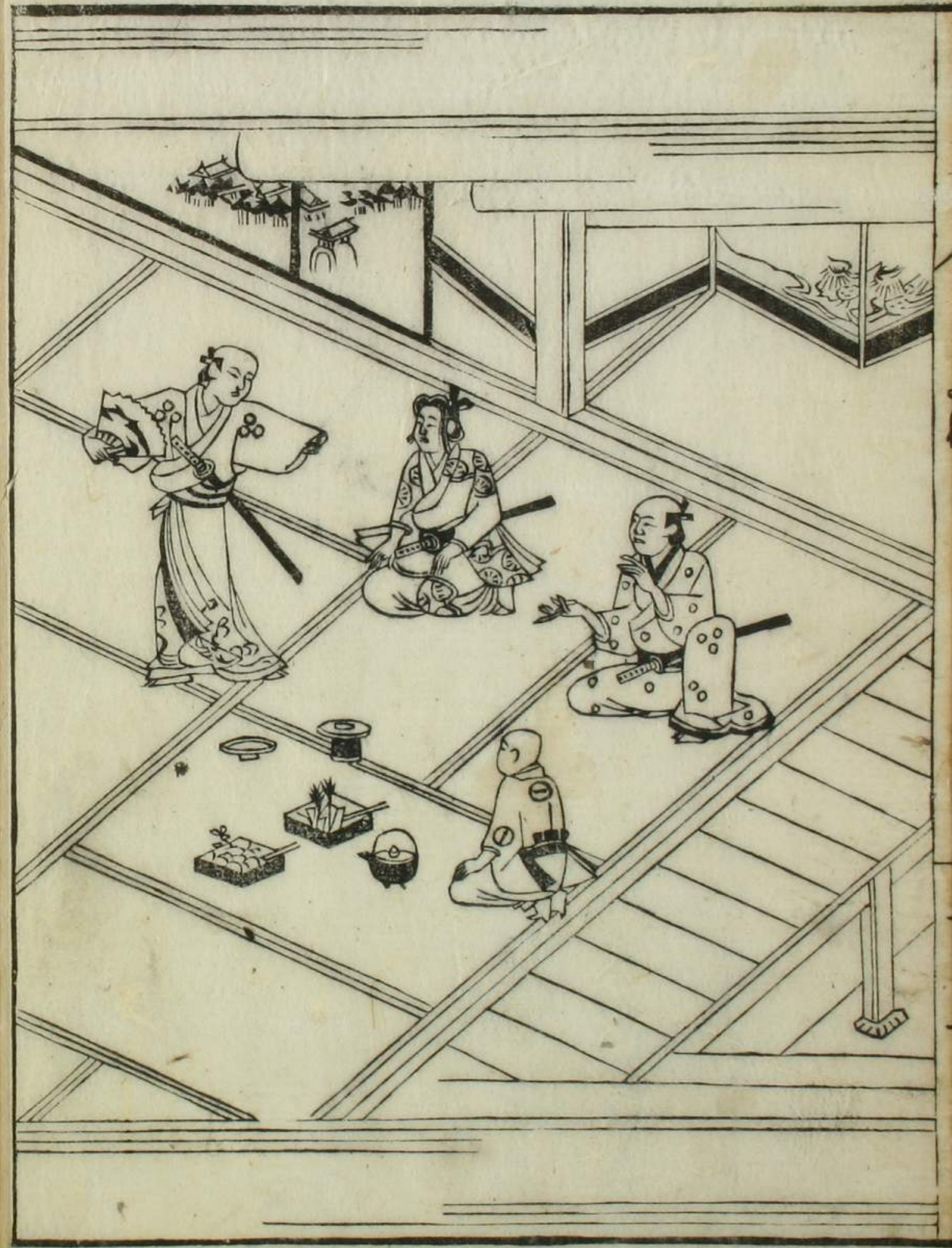
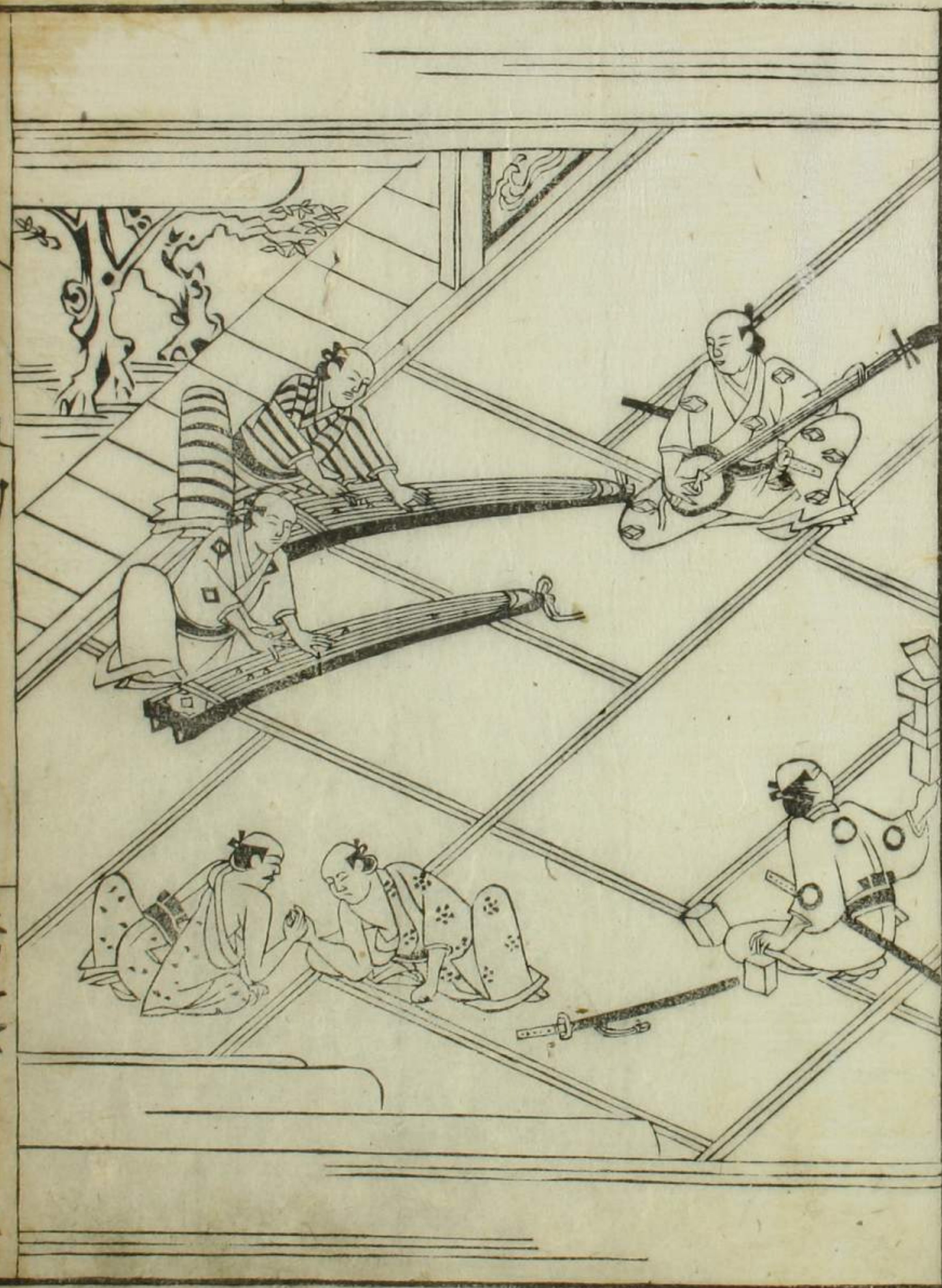




梅子のまらゆいすむばくちり。尾線ととりてる。  
くまらちとのせむらひのうろの童のむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて推すのまらちもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに

まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに  
まじりて研ぶるもわらひのむらじに







あつどの男のいづくにたかどくけいあつり  
けいづくに倅とわびてり見ゆんよづくこと  
みか下魂とて一切余後の及ぼすめ給はらる  
みか方えゆる世宿あも思は強きものか若くは強  
しとていご不若のたふま入つたれものか若くは  
づらゆらもすまわらりましくわあひらうに  
はとせまんとわびを給ふことの中漢あて  
い給らんかあらうらう強き者としていめ給  
の相とていゆとて人と若くはみらびと給らん  
候のみらと中よりしていと強きとらめ給らん

ゆかまらりて戯初謀りやうとて六法子存れ  
よわすややえんさうとてい遣ひて人の  
にすらあも料わりあうとてい工巧よ人の  
うとてい人の強きとていあつど。今のうとてい  
人形よとてい目と費し給ふとていあつど  
名形あも強編とてい人の楊思斎とてい人の  
とあつどとてい奥とていあつどとていあつど  
逆轉わりて強編とてい強とていあつどとてい  
備とていあつどとていあつどとていあつど  
ハ舞よとてい人形のあつどとていあつど











中ねのしきりせいのきりぎりすのうららかに  
あそびんよりしるする寒のうらみに  
あそびんよりしるする寒のうらみに

省慶安元著雍困敦拾

星鳥中浣

棟條軒

書



